

【仙台】第11回全国和牛能力共進会宮城大会（和牛全共、全国和牛登録協会主催）は10日、市内の夢メッセみやぎで最終審査が行われた。和牛の日本一を決める審査があり、最終的な等級が決まった。過去最多の14頭（種牛9頭、肉牛5頭）が臨んだ十勝勢では、種牛の部第5区（繁殖雌牛群）に出た4頭一組が、全国5位に当たる優等賞5席に入った。



今大会で十勝勢最高の優等賞5席に入った第5区の出品牛4頭

全国39道府県から、513頭（種牛330頭、肉牛183頭）が登録。5年に1度の開催で「和牛のオリンピック」と呼ばれ、全国の産地が和牛改良の成果や肉質・肉量を競い合う。

夢メッセみやぎでは種牛の部の最終審査が行われ、道代表の十勝勢9頭も大勢の来場者が見守る中、審査に臨んだ。集団での改良成果や繁殖技術を競う第5区には、18組72頭が参加。管内から出た山田貴赦さん（44）＝幕別、菅野英夫さん（73）＝更別、三野宮秀和さん（41）＝音更、清水和博さん（43）＝足寄＝の出品牛は優等賞

5席に入った。

十勝勢で過去最高の優等賞4席（2007年大会、6区）を上回ることとはできず、山田さんは「目標はもっと上だったので、うれしいと悔しいが半分ずつ。自信を持った牛が評価されたことは素直に喜ぶたい」と話した。

この他の十勝勢では、第1区（若雄）で十勝家畜人工授精所（帯広）の牛が初の出品で優等賞8席。同所の吉川広司社長は「素晴らしい評価をしてもらった。関係者に感謝したい」と喜びを語った。

生体の種牛とと畜後の枝肉の総合力を競う第7区（総合評価群）は、「花の7区」と呼ばれる注目区で十勝からは初出品。種牛は斉藤雅登さん（40）＝幕別、多田隆一さん（57）＝池田、安藤誠さん（46）＝豊頃、清水孝悦さん（40）＝池田＝の出品牛4頭一組が7席。肉牛では上士幌町農協肥育センター、サンエイ牧場（大樹）、山田さんの3頭一組の枝肉が15席となり、種牛と肉牛を合わせた総合順位は全国11位の1等1席だった。

肉牛の部は、仙台市中央卸売市場食肉市場で9日に開かれた審査の結果、第8区（若雄後代検定牛群）で、美郷牧場（更別）の1頭を含む3頭一組が優等賞9席。第9区（去勢肥育牛）では上士幌町農協肥育センターが2等だった。

和牛産地への挑戦（上）

2017年9月26日

種牛 成長示す入賞



第5区で5位になった十勝勢。健闘したが九州など府県勢との差も実感した

「うれしいと悔しいが半分ずつ。自信を持って出した牛たちだったが府県にはかなわなかった」

好成绩も落胆 九州の厚い壁

仙台市で開かれた第11回全国和牛能力共進会宮城大会（和牛全共）。第5区に出品した山田貴赦さん（44）＝幕別＝は、5位の成績に複雑な表情を見せた。

4頭による“団体戦”の5区で、十勝の出品牛は1～5位の最上位を決める審査まで残った。しかし、目標とした3位以内には届かず、九州勢の壁の厚さを肌で感じた。

育種改良の成果を見る種牛と、と畜して肉の質と量を分析する肉牛を総合評価する第7区。「花の7区」と呼ばれる注目区に十勝勢が初出品した。種牛は7位だったが、肉牛は参加16頭のうち15位と振るわなかった。枝肉の断面や数値を見た出品者は、短期の飼育期間で肉質、量ともに仕上げた府県産との差に驚いた。

今回の和牛全共で、道勢23頭の最高は4位。十勝勢は過去最多の14頭で臨んだが最高は5区の5位。前回より